

## 2

# 構成的 グループエンカウンター

自他発見を深め、ふれあいのある人間関係を  
育てよう

## 人間関係づくりは構成的グループエンカウンターから

### (1) なぜ今、学校で構成的グループエンカウンターが必要なのか

現代社会は人間関係の希薄化が進行し、その結果として、人間関係をつくっていく能力を子どもたちが自然に獲得するのが難しくなっています。とは言っても、子どもたちのキャリア形成を考えると、一生、他者とのかかわりなくして過ごしていくわけにはいきません。他者とかかわることを好ましく感じる気持ちや他者とかかわる力を付けることが、今こそ学校教育に求められているのです。

先日、ある中学校の教頭先生と話をしている、互いに得心したことがあります。それは次のような内容です。

現代の先生は、学校に課される様々な取り組みの増加と、それに伴う事務仕事の肥大化で多忙を極めている。だから、先生には昔のようにテストが終わったら子どもとソフトボールをして遊んだり、じっくりと人間関係を築く時間と余裕がない。子どもたちも子どもたちでスマホやゲームを介した小グループでの密だが表面的な交流が多く、人間関係が育っていない。子どもたちの間に起こっている心に関する諸問題の解決を図るためには、良好な人間関係とそれを築いていく力が欠かせない。今、切に人間関係づくりができる資質が先生に求められている。でも振り返ると、我々世代がそのハシリだが、

人間関係を築くことが苦手な人間が多い時代になっており、先生自身もその例外ではない。人間関係づくりの技量は、本を1冊読んで「ハイできた！」というように一朝一夕に習得できることではないので、忙しい先生には余計に難しい課題となっている。……

その後も話は続いたのですが、結論的に言うと、「育てるカウンセリング」の実践の大きな柱である「構成的グループエンカウンター（SGE）」（以下、「エンカウンター」と略記）のような、具体的に集団を育成する力量が高まる教育技法をもっと習得する機会が必要だという話になりました。

エンカウンターが一番の長所は、自己成長をめざす健康な人を対象とする技法なので、子どもと教員が共に成長できることにあります。

## **(2) エンカウンターとは何か**

### **能動的・集中的なグループ体験**

「エンカウンター」とは「出会い」という意味で、自分との出会いと他者との出会いがあります。

「構成的」とは条件設定をするということで、子どもたちに課題の内容、時間、グループサイズ、ルール等を指定して枠を示します。枠を示すことで、エンカウンターに参加しやすくなったり自己表現しやすくなりますし、心の傷が生じるのを防いだり、現実原則を体験学習させる際の配慮が行き届きやすくなります。もともと学校での生活は構成的なので、子どもたちも先生方も構成的ということに慣れているという利点もあります。

条件が設定された中で、能動的・集中的なグループ体験をとおして自分や他者と出会う——これが構成的グループエンカウンターです。

### **目的は自己発見とふれあいのある人間関係による人間的成長**

エンカウンターは、頭でわかるだけでなく胸にグッと来るような自己への気づきによって自己理解が深まることをめざします。そして、自己理解が深まるにつれて他者理解も深まり、他者受容の幅が広がります。

人間は多かれ少なかれ「周囲の人から嫌われたくない」という気持ちを持ちがちですが、そういう「失愛恐怖」を手放して、あるがままの自分の本音を交流することで、ふれあいのある人間関係が生まれるのです。